

23rd うえだ城下町映画祭

上田文化会館、犀の角、上田映劇
上田市マルチメディア情報センター

2019 11.15 金・16 土・17 日



©2018 フジテレビジョン ギャガ AOI Pro.

これでも家族、
それでも家族。



©「兄消える」製作委員会



©2019「まく子」製作委員会／西加奈子（福音館書店）



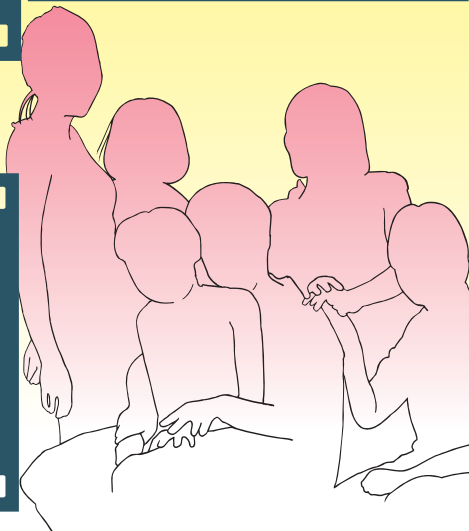
©2018 スタジオ地図



©吉本興業



©2019映画「翔んで埼玉」製作委員会



僕のいない学校

主催／うえだ城下町映画祭実行委員会

共催／SBC信越放送

特別協賛／上田市商店会連合会、(一社)長野県情報サービス振興協会東信支部

後援／上田地域広域連合、上田商工議所、(福)上田市社会福祉協議会、(一社)信州上田観光協会、(一社)上田青年会議所、東京上田会

(公財)八十二文化財団、東日本旅客鉄道株式会社上田駅、しなの鉄道株式会社、上田交通株式会社、信濃毎日新聞社、信州民報社、東信ジャーナル社

週刊上田新聞社、上田ケーブルビジョン、丸子テレビ放送株式会社、信州大学繊維学部、長野大学、上田女子短期大学、長野県工科短期大学校

問合せ／うえだ城下町映画祭実行委員会事務局(上田市交流文化スポーツ課)

TEL:0268-75-2005 (土・日・祝日を除く8:30~17:15)

映画祭HP <https://www.unic.jp/eigasai/index.html>

@castletownFF

f @castletownff

映画祭ホームページ





ごあいさつ

第23回うえだ城下町映画祭の開催にあたって

本日は、第23回うえだ城下町映画祭に御来場いただき誠にありがとうございます。

うえだ城下町映画祭は、上田ロケ作品をはじめとする日本映画の上映、映画関係者のゲストークなどを行うことで、映画関係者と市民の交流や、上田地域における映画を中心とした映像文化の振興を図ることを目的に開催してまいりました。

23回目を迎えた今回は、“これでも家族、それでも家族。”をテーマに、様々な家族の形を描いた作品をお届けします。

今年は15日(金)に、前夜祭として第6回自主制作映画コンテスト大賞を受賞された日原進太郎監督の新作『僕のいない学校』を大正6年創業の歴史ある上田映劇で上映します。

16日(土)は、上田市出身・鶴岡慧子監督の『まく子』、自主制作映画コンテストの審査員でもおなじみ古厩智之監督の『サクラんぼの恋』や、数々のアニメーション映画を手掛ける細田守監督の話題作『未来のミライ』の3作品を選びました。

17日(日)は、全国に先立ち公開された大ヒットオール上田ロケ作品の『兄消える』、第71回カンヌ国際映画祭最高賞パルム・ドール受賞『万引き家族』や、『翔んで埼玉』を上映します。あわせて、『兄消える』に御出演の土屋貴子さんと巡るロケ地ツアーを開催するほか、『翔んで埼玉』は昨年好評だった上映中にスクリーンに向かって歓声や喝采を送る“応援上映”でお楽しみいただきます。

また、例年多くの御応募をいただいている自主制作映画コンテストは今年で17回目を迎え、今回は112作品もの力作が寄せられました。映画祭期間中には、表彰式・大賞作品の上映の他に、今年も「犀の角」(海野町)を会場に、受賞作品及びノミネート作品を上映いたしますので、そちらもぜひ御鑑賞ください。

最後になりましたが、開催にあたり御協賛・御後援いただいた皆様、御協力をいただきました多くの皆様に心より感謝申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

うえだ城下町映画祭実行委員会

総司会



大岩 堅一 (おおいわ けんいち)

1958年、千葉県木更津市生まれ。早稲田大学教育学部卒。1980年大阪・朝日放送(ABC)にアナウンサーとして入社。1988年FM長野に移籍「タブロイドラヂオ～レッツ午前中！」などを担当。2006年4月からフリーになり、SBCラジオなどに出演しながら各地のイベントの司会も務める。うえだ城下町映画祭の司会は第10回から。現在はFMぜんこうじ、あづみ野FMで番組を担当。信州観光文化検定2級、松本検定・第1回合格。松本市在住。

映画祭実行委員募集

うえだ城下町映画祭の実行委員として参加してくださる方を募集します。

映画のまち上田の映画祭に参加してみませんか？

お問い合わせは

うえだ城下町映画祭実行委員会(事務局 上田市交流文化スポーツ課)

TEL 0268-75-2005(土・日・祝日を除く8:30～17:15) E-mail: koryusports@city.ueda.nagano.jp

協賛企業



建物総合管理専門企業

株式会社 日本ビルシステムズ

本 社	〒386-0025 長野県上田市天神1丁目8番1号 TEL 0268-24-3411(代)		
	FAX 0268-25-3411 URL: http://www.jb-systems.jp E-mail: info@jb-systems.jp		
上田営業所	〒386-0025 上田市天神1丁目8番1号 上田駅前ビルパレオ6F	TEL 0268-21-3411(代)	
長野営業所	〒380-0836 長野市南県町1040番1号 日本生命県庁前ビル3F	TEL 026-228-3911(代)	
松本営業所	〒390-0811 松本市中央1丁目15番7号 ハネサム松本2F	TEL 0263-34-7211(代)	
小諸営業所	〒384-0005 小諸市御幸町2丁目12番1号 アイクビル1F	TEL 0267-23-9511(代)	
佐久営業所	〒385-0011 佐久市猿久保891番地1号 ナコービル2F 202号	TEL 0267-68-6811(代)	

上映スケジュール

11
/ 15
(金)

前夜祭：上田映劇 15日 18:30～

18:30
18:30～21:10
21:00
僕のいない学校 128分
ー ゲストトーク ー
日原進太郎監督、嶺豪一さん、
鋤崎智哉さん、小宮山みゆきさん

上田文化会館
開場 16日 8:30・17日 9:00

11
/ 16
(土)

8:30
9:00
10:00
11:00
12:00
13:00
14:00
15:00
16:00
17:00
18:00
19:00
8:30 開場
9:00～9:10 開会セレモニー
9:10～10:48 未来のミライ 98分
昼休憩 72分
12:00～14:20 まく子 108分
ー ゲストトーク ー
鶴岡慧子監督
14:35～17:05 さくらんぼの恋 117分
ー ゲストトーク ー
古厩智之監督
17:20～17:55 自主制作映画コンテスト表彰式
18:00～18:31 自主制作映画コンテスト大賞作品上映 「春」 31分

11
/ 17
(日)

9:00
10:00
11:00
12:00
13:00
14:00
15:00
16:00
17:00
17:30
9:00 開場
9:30～11:45 兄消える 104分
ー ゲストトーク ー
柳澤慎一さん、土屋貴子さん、
新田博邦さん (プロデューサー)
昼休憩 75分
13:00～15:00 万引き家族 (PG12) 120分
15:15～15:25 応援上映説明
15:25～17:11 翔んで埼玉 106分

自主制作映画
コンテスト
上映会

海野町「犀の角」

11/16(土)

9:00～16:42

受賞作品
ノミネート作品 上映

11/17(日)

9:00～17:34

ノミネート作品
上映

上田市マルチメディア
情報センター
TEL.0268-39-1000

11/23(土)・24(日)

13:00～17:40

自主制作映画
コンテスト
受賞作品上映

11/17(日)

土屋貴子と行く
「兄消える」ロケ地ツアー
12:00～

うえだ城下町映画祭
関連企画上映

犀の角

11月16日(土) 17:10～18:10
「六文戦士ウェイダー」



応援上映会
&
トークショー

僕のいない学校

2018年(平成30年)／



■スタッフ

監督・脚本:日原進太郎
共同脚本:鋤崎智哉
美術:小宮山みゆき

■出演

嶺豪一	矢柴俊博
吉川諒	鎌滝勇樹
松本雄士朗	岩谷健司
黒田大輔	原金太郎

■物 語

とある専門学校の映画学科に教員として勤める田原は、自身もクリエイターであることから、利益重視の学校運営によって創作活動が思うようにできない学生たちの現状に心を痛めていた。徐々に腐っていく学生たちに呼応するように、自身の創作活動も停滞している。そんな折、上司である木藤の昇進を契機に思いがけず映画学科の学科長となった田原は、周囲の期待や自身の理想を胸に学科の立て直しを図るのだが……

*この物語はフィクションです。登場する人物・団体・名称等は架空であり、実在のものとは関係ありません。

■解 説

この数年間、日本において「全体」と「個人」の間で揺れ動き、考えさせるような出来事が起きています。この作品では、ビジネスとして専門学校を成り立たせようとする上司の圧力を受けつつも、学生の側に立って彼らを導いていこうと奮闘する教師の姿が描かれています。

とはいえ、主人公は学校を強引にねじ伏せるのではなく、時には学生を家族のように見守り、時には自らの立場に深く悩みながらも、静かに自分の意志をつらぬきます。その姿に物足りなさを感じる人もいるかもしれませんが、「今どきの闘い方」の一つの形を見ることができるのではないのでしょうか。

日原進太郎監督は自ら教鞭をとっています。2008年の当映画祭第6回自主制作映画コンテストで「幸せなら手をつなごう」で大賞受賞、10年ぶりに上田にお迎えします。また、美術担当・演者の小宮山みゆきさんは上田市のご出身で日原監督の教え子であり、昨年の当映画祭の自主制作映画コンテストにて「注射針をブルーシートで」が審査員賞(大林千茱萸賞)を受賞。共同脚本の鋤崎智哉さんもコンテストにご縁があります。さらに主演の嶺豪一さんは上田ロケ映画「エキストラランド」で音声スタッフの役で出演なさっています。

この4名様をお招きして、上田地域の映画シーン

をけん引する老舗映画館「上田映劇」にて上映ができることに深く感謝申し上げます。

(sci_)

ゲストトーク

日原進太郎監督

1980年生まれ。大阪府箕面市出身。早稲田大学卒業後、東京ビジュアルアーツにて映画を学ぶ。中編『春夏秋冬くるぐる』が第33回びあフィルムフェスティバルPFFアワード2011にて準グランプリを受賞。その他に『パン屋の息子』『人間ていいな』など、コンスタントに作品を制作し、国内外の映画祭にて発表。初長編となる『僕のいない学校』は第31回東京国際映画祭日本映画スプラッシュ部門に正式出品された。うえだ城下町映画祭では、過去に短編『パリレリーナの穴』が審査員賞(大林千茱萸賞)、中編『幸せなら手をつなごう』が大賞を受賞している。



嶺豪一さん

1989年生まれ。熊本県出身。多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科卒業。『故郷の詩』が第30回そつせい祭でグランプリを受賞。第24回東京学生映画祭でグランプリ・観客賞をダブル受賞。その後、第34回びあフィルムフェスティバルPFFアワード2012にて審査員特別賞・観客賞(福岡)を受賞し、第31回バンクーバー国際映画祭に正式招待される。現在は俳優としても幅広く活動。主な出演作として、映画『菊とギロチン』『リバーズ・エッチ』『溺れるナイフ』ドラマNHK『いだてん〜東京オリムピック噺〜』など。今秋『魔法少年☆ワイルドバーズ』が公開予定。



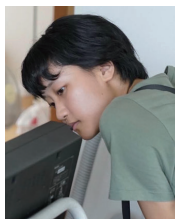
鋤崎智哉さん

1986年生まれ。石川県出身。明治大学法学部法律学科卒業。2010年『バカがウラヤマシイ』(監督・脚本)を劇場公開し、商業デビュー。2016年には『バイバイ、おっぱい』(監督・脚本)でゆうばり国際ファンタスティック映画祭オフィアターコンペティション部門シネガーアワード(批評家賞)、福岡インディペンデント映画祭90分ムービー部門最優秀作品賞を受賞。共同で企画・脚本を務めた『僕のいない学校』は第31回東京国際映画祭日本映画スプラッシュ部門に正式出品された。



小宮山みゆきさん

1998年生まれ。長野県上田市出身。高校卒業後、東京ビジュアルアーツに入学し、短編映画の制作を行う。監督作『注射針をブルーシートで』は当映画祭の第16回自主制作映画コンテストにて審査員賞(大林千茱萸賞)を受賞。現在も作家活動を続けながら、8ミリ映画イベント「moment8」を主催・運営している。本作『僕のいない学校』では、演者・美術助手を担当した。



未来のミライ

2018年(平成30年)/2018 スタジオ地図



©2018 スタジオ地図

■スタッフ

監督・脚本・原作: 細田守
ゼネラルプロデューサー: 高橋望
作画監督: 青山浩行、秦綾子
美術監督: 大森崇、高松洋平
音楽: 高木正勝
主題歌: 山下達郎

■出演

上白石萌歌 黒木華
星野源 麻生久美子
吉原光夫 宮崎美子
役所広司 福山雅治

■物 語

都会の片隅にある小さな家。そこに住んでいるのは、お父さんとお母さんと甘えん坊のくんちゃん。ある日、そのくんちゃんのもとに生まれたばかりの妹がやってくる。最初は可愛いと思ったものの、両親の愛情は妹の方に。初めての経験に戸惑うばかりのくんちゃんの前に、自分よりずっと年上なのに、くんちゃんのことを「お兄ちゃん」と呼ぶ不思議な少女、ミライちゃんが見れる。そして、くんちゃんはミライちゃんに導かれ、時空を超えた家族の物語の旅へと出かけることになる。さまざまな冒険を経て、ささやかな成長をしていくくんちゃんが最後にたどり着いた場所とは、そして、ミライちゃんがやってきた本当の理由とは…。

■解 説

上田が舞台となった「サマーウォーズ」で、上田市民にはおなじみの細田守監督の最新作。この作品でも、舞台背景のロケ地として上田の風景が登場している。くんちゃんのお母さんの子供時代の家のある町は、常田や柳町、丸堀のあたり。そして、くんちゃんが出会う青年時代の曾祖父(ひいじいじ)がひいおばあさんになる女性にプロポーズするのは、浦里小学校の近く(お母さんが通っていたのは浦里小学校)だ。場所が上田だということは出てこないが、ひいじいじの声を演じる福山雅治が話しているのは上田あたりの方言だ。そんなところを探しながら見るのも映画の楽しみ方のひとつかも知れない。

(Chihiro)

まく子

2019年(平成31年)/「まく子」製作委員会/西加奈子(福音館書店)



©2019「まく子」製作委員会/西加奈子(福音館書店)

■スタッフ

監督・脚本: 鶴岡慧子
原作: 西加奈子
撮影: 下川龍一
美術: 徐賢先
音楽: 中野弘基
主題歌: 高橋優

■出演

山崎光 新音
須藤理彩 草薨剛
つみきみほ 村上純(しずる)
橋本淳 内川蓮生
根岸季衣 小倉久寛

■物 語

山あいの温泉街で旅館を営む両親と暮らす、小学5年生のサトシ。サトシの母・明美は代々続く旅館を快活に切り盛りし、父・光一は料理長として働いている。小さな町では誰もが顔見知り、クラスメイトも小さい時からずっと一緒に変わらない。そんな町にちょっと風変わりな母娘が越してきた。美少女・コズエはサトシと同じ11歳。コズエも母も無表情で、人との言葉のやりとりにもどこか不自然。つかみどころのないコズエに最初は困惑していたサトシだったが、次第に彼女に魅せられていったある日、コズエから“大きな秘密”を打ち明けられる……。

■解 説

直木賞作家西加奈子のベストセラー、映像化不可能と言われた『まく子』を新進気鋭の鶴岡慧子(監督・脚本)が見事に映画化。思春期の男の子の成長を中心に据えて、彼の周囲、小さなコミュニティで起こる小さな出来事の一つひとつを、テンポよく、丹念に、愛情を込めて描いている。映画の見所はなんといっても「映像化不可能」な部分の映像化だと思いが、それは観てのお楽しみ。これまで、故郷の上田を舞台に『過ぐる日のやまねこ』などの映画を撮ってきた鶴岡が「この映画にはここしかない!」と思ったという群馬県中之条町でどんな映画を撮ったのか? 大人になってゆく少年と移ろいゆく四季から不思議な少女が「まく」印象的なクライマックス。原作者から「自由に撮って」と言われ、如何にも鶴岡らしい独自の世界観をつくりあげている。草薨 剛の好演、なんだかちょっと変な新音の演技にも注目。(Kaz)

ゲストトーク



鶴岡慧子監督

1988年生まれ、長野県上田市(旧真田町)出身。立教大学の卒業制作である『くじらのまち』(12)がPFFアワード2012でグランプリとジェイムストーン賞をW受賞。その後第23回PFFスカラシップを獲得し『過ぐる日のやまねこ』(15)で劇場デビュー。最新作は西加奈子氏の同名小説が原作の『まく子』(19)。

サクランボの恋

2018年(平成30年)/KATSU-do



©吉本興業

■スタッフ

監督:古厩智之
脚本:古厩智之、政池洋祐
撮影:藤原秀夫
音楽:上田禎
美術:小林大輔

■出演

宮川大輔 桜井ユキ
草川拓弥(超特急)
前田公輝 佐野ひなこ
柄本時生 明星真由美
菅原大吉

■物 語

大手ファミレス店長の45歳の独身男・山川則夫は気が弱く、お人好し。生まれてこの方、女性経験すらない山川にとって楽しみはアイドルとゲーム、憧れのAV女優・恩田リナのビデオを観ることだった。ある日、則夫の部屋に女性が逃げ込んでくる。なんとそれは恩田リナだった。

■解 説

この作品は何をやってもうまくいかない不器用な男女の美しくもあり、切ない恋愛物語です。

一人はファミレスの店長をしているものの部下やお客にバカにされている頼りない男、もう一方は両親を早くに亡くし弟との生活費を稼ぐためにAV女優として働く女、そんな二人がひょんなことから出会い、様々な困難にもめげずお互い懸命に生きようとするのですが……。

監督は塩尻市出身で当映画祭の自主制作映画コンテストの審査員であり、「ホームレス中学生」など数々の作品を手掛けている古厩智之監督。

主人公を演じるのは数々のお笑い番組で活躍している宮川大輔です。今回はクスッと笑ってしまうシーンもありますが、シリアスな場面が多くいつとも異なる一面を観ることができます。

相手役は様々な映画やドラマで活躍している桜井ユキ。その他脇を固める柄本時生、菅原大吉、森三中の黒沢かずこらがいい味出してます。

この時季にふさわしい作品をぜひご覧下さい。

(Chino)

「サクランボの恋」ゲストトーク



古厩智之監督

1968年長野県生まれ。「ロボコン」「奈緒子」「ホームレス中学生」「『また、必ず会おう』と誰もが言った」などの映画や、テレビドラマ「銀と金」「サチのお寺ごはん」「ぼくは愛を証明しようと思う。」などの演出も多数手がける。

兄消える

上田ロケ作品

2019年(令和元年)/エレファントハウス、ミュージ・プランニング



©「兄消える」製作委員会

■スタッフ

監督:西川信廣
脚本:戎井昭人
企画・製作:新田博邦
撮影:小美野昌史
音楽:池辺晋一郎

■出演

柳澤慎一 高橋長英
土屋貴子 新橋耐子
金内喜久夫 坂口芳貞
原康義 たかお鷹
江守徹 雪村いづみ

■物 語

町工場を細々と続け、100歳で亡くなった父親の葬式を終えたばかりの76歳の真面目な独身、鉄男のもとに、40年前に家を飛び出した80歳の兄・金之助がワケあり風の若い女、樹里を連れて突然舞い戻ってきた。その日以来、奇妙な共同生活を始める3人。ロケ地:角製作所 阿部製作所 袋町 喫茶コロナ 大星斎場 柳の湯 キッチン樹 アピナ上田店 相生食堂 ナイトlone 長野駅 ほか

■解 説

信州上田を舞台に、40年ぶりに再会した対照的な老兄弟の絆を、ほろ苦い笑いと共に瑞々しく描いた“青春寓話”。

兄、金之助を演じるのは、軽妙洒脱な演技で人気を博し、「今作を遺作にしたい」という思いで撮影に臨んだ戦後昭和を代表する、伝説の喜劇俳優、柳澤慎一(86歳)。弟、鉄男には、俳優座養成所出身で、舞台や映画で活躍する名優、高橋長英(76歳)。ヒロイン役には、上田市出身の上田市観光大使でもある土屋貴子さんが映画に華を添えています。

放蕩無頼の兄と真面目な弟の会話に注目していただき、ご自身の心に響く、金之助語録を見つけながらご覧ください。

兄から弟に手紙が送られるのが映画の重要なシーンとして描かれていることから、信州上田フィルムコミッションでは、観客の方に弟の気持ちになり兄に手紙を返そうという企画を実施し、全国から138通もの手紙をいただきました。

手紙はすべて金之助役の柳澤慎一さんに直接お渡ししました。キャンペーンの締切は過ぎていますが、随時、手紙の受付を行い、いただいた手紙はすべて柳澤さんにお届けします。

(Yamagishi)

「兄消える」ゲストトーク



柳澤慎一

1932年12月、東京都出身。1952年、ジャズ歌手としてデビュー。1953年から1955年にかけて日劇に500日間出演。映画出演は170本以上。1966年から日本で放送された米人気ドラマ「奥様は魔女」のダージン役でも知られる。近作は『メゾン・ド・ヒミコ』(2005年)、『ザ・マジックアワー』(2008年)。1981年、長年のボランティア活動に対して、総理大臣表彰を受けた。

万引き家族 (PG12)

2018年(平成30年)/フジテレビジョン、AOI Pro.、ギャガ



©2018 フジテレビジョン ギャガ AOI Pro.

■スタッフ

監督・脚本・編集：是枝裕和
製作：石原隆・依田義
中江康人
撮影：近藤龍人
音楽：細野晴臣

■出演

リリー・フランキー
安藤サクラ 松岡茉優
池松壮亮 城桧吏
佐々木みゆ 高良健吾
池脇千鶴 樹木希林

■物語

鮮やかな連係プレーで万引きをする、父の治と息子の祥太。家族は治と妻信代の給料に加え、治の母である初枝の年金、そして治と息子の祥太が親子で手掛ける万引きで生計を立てており、そこへ信代の妹の亜紀が転がり込んでいた。

ある冬の日、治と祥太が団地の廊下で、幼い女の子、ゆりが凍えているのを見かねて連れて帰る。夕食後、ゆりを家へ帰しに行くが、信代は児童虐待を感じ取り来た道を引き返してしまう。それ以来、ゆりを6人目の家族として一緒に暮らすことになった。

■解説

是枝監督は、「DISTANCE ディスタンス」(2001年)と「誰も知らない」(2004年)を手始めに、福山雅治主演の「そして父になる」(2013年)などが数々の国際映画祭で受賞し、2018年には、本作により、第71回カンヌ国際映画祭の最高賞パルム・ドールを獲得した。日本映画では1997年の今村昌平監督「うなぎ」以来21年ぶりの快挙である。

「ファミリードラマにピリオドを打って、現代の日本が抱える問題の上に家族を置き、そこで起きる摩擦を描こうとした」と監督自身が本作について述べているように、登場人物の背景は、日々報道される事件や社会問題であることに気づく。

犯罪に手を染めることでしか生きられないと皆が思い込んでいる虚構の家族。同時に、血のつながった家族によっては得ることのできなかった絆を取り戻そうと引かれあう家族の物語でもある。

(滝沢)

翔んで埼玉 (応援上映)

2019年(平成31年)/東映



©2019映画「翔んで埼玉」製作委員会

■スタッフ

監督：武内英樹
原作：魔夜峰央
脚本：徳永友一
音楽：Face 2 fAKE
主題歌：はなわ

■出演

二階堂ふみ GACKT
伊勢谷友介 ブラザートム
麻生久美子 島崎遥香
中尾彬 加藤諒
竹中直人 京本政樹

■物語

その昔、埼玉県人は東京都民からひどい迫害を受けており、通行手形がないと強制送還されてしまうのだった。埼玉へのディスりが強烈なインパクトを放つ、関東圏を巻き込んだ【愛と革命の物語】が誕生！ 壮大かつ大真面目に郷土愛へ向合う、エンターテインメント超大作！

■解説

埼玉県はむかしから巷で、「ださいたま」なんて言われたりしていたが(埼玉県民のみなさまごめんさい!), まさかこんな映画が世に出ようとは、誰も予想していなかったに違いない。

出だしから何が始まるのだろうか? といった本作だが、「原作：魔夜峰央」という文字がスクリーンに映し出された瞬間、「パタリロ!」と瞬時に思い浮かぶ世代には、この映画がどんな映画なのか、おぼろげながらに理解できてしまうであろう。そう! それは、ギャグ漫画ならぬ、ギャグ満載映画(コメディ)なのだ!

だがしかし! そればかりではない何かがこの映画にはあるのだ! 単に埼玉をディスるだけの、埼玉と千葉が対決するだけのストーリーではない何かが…。それは観てのお楽しみということにしておこう。

長野県つながりで言えば、人物デザイン監修/衣装デザインを伊那市出身の柘植伊佐夫さん(「精霊の守り人」の人物デザイン監修なども担当)が手掛けているのも見どころの一つ。応援上映も絶対にたのしいはず!!

(加瀬きあめ)

※応援上映とは、映画の登場人物へ観客が歓声や喝采を送る、一体感を楽しむ鑑賞スタイルです。



土屋貴子

1965年12月、長野県上田市出身。レギュラードラマ出演の為、高校時代より上京し芸能活動を始める。その後、今関あきよし監督の自主映画で主役としていくつかの秀作を残す。本人の意志により中国との関係も深く、中国映画にも参加している。2013年公開の主演映画「潜伏」では、主人公を見事な存在感で演じ高い評価を得た。第一回新人監督映画祭にて主演女優賞を受賞。2006年に信州上田観光大使に就任。上田市の魅力を伝えている。



新田博邦(プロデューサー)

株式会社ミューズ・プランニング代表。最近の作品は『ばあばは、だいじょうぶ』『キセキの葉書』。映像から音楽まで幅広く取り扱えるプロデューサーとして独自のポジションを築いている。

第17回 自主制作映画コンテスト 11.16土・11.17日

■16(土)/◎表彰式 ◎大賞受賞作品上映(文化会館) ■16(土)・17(日)/各賞受賞作品・ノミネート作品上映(海野町「犀の角」)

11.23土-24日 / 上田市マルチメディア情報センター ◎受賞作品上映会 (13:00~)

受賞作品紹介

「春」(31分) 監督/大森 歩

2019

大賞



[あらすじ] 祖父の家に居候をする、美大生のアミ。大人になるアミとは反対に、どんどんボケていき、子供返りするおじいさん。やがて、二人の感受性が重なる。

<応募作品についてのメッセージ> 実体験をもとにしています。

<監督自己アピール> 学生時代、二人で一緒に住んでいた祖父が亡くなり、自分の憤りを形にしたくて初めて映画を作りました。たくさんの人に、見ていただけたら幸いです。

2019

審査員賞 大林千栄実賞



「ISI」(15分) 監督/藤本明

[あらすじ] 青年期において、自分がそなりたいたいと思ひ、ときには自らそうであると信じ込んでいる一人前の人間というイメージがある。他方、現実の自分は身体的、精神的に未熟で、しかも不安定な人間という否定しがたい側面がある。この両者の不一致から青年の自己価値は揺れる。

<作品のメッセージ> 作品に出てくる二つの感情は、一見違ふようにみえても、どちらも周りと比較からくるものである。他人志向になりがちな青年期において、自らに有るものと無いものを自覚し、受け入れること。変化の只中においても揺らぐことのない自分。無いものを獲得するための向上心。そして何よりも、自らの志を大切にすることが重要なのではないかと考える。

<監督自己アピール> 20歳。神奈川県出身。

2019

審査員賞 柘植靖司賞



「パールブルーがかさなる」(30分) 監督/田中麻子

[あらすじ] 23歳・高卒・フリーターの留風はすぐにバイトを辞めてしまう。次のバイトがなかなか決まらなかったある日、スーパーで友達のか奈に出会いレジのバイトを紹介してもらう。隣で前向きに働く同僚たちや、家族や世間からの眼差しにだんだんと辛い思いを抱えて行くが、お客さんや同僚たちとふれあう中で仕事に、自分自身にきちんと向き合おうと思った留風は、同じく仕事に悩んでいる兄・晃からの「なぜ働くのか」という問いに答える。

<作品のメッセージ> 社会の中で、「フリーター」「アルバイト」として働くことはとても弱い立場で働くことです。世間からの風当たりも強く、職場では尊重されず、そのような環境の中で働く自分自身も「なぜ働くのか」「なぜ・なんのために生きているのか」がわからなくなることがあります。しかし、どのような生活をしている者も社会の一員であり、働き方によってその存在に優劣をつけて良いということはありません。この作品では、様々な人が社会に生きていて、それぞれの生活の中で精一杯生きているということを伝えたいと思い企画しました。作品の内容は、若いフリーターからパートのおばちゃんや鬱陶しいおばあちゃんまで様々な人が出てきており多くの人が感じたことのある気持ちを描いていますが、特にいま働くことに悩んでいる人、「なんでこんなことしてるんだろうなあ」と思っている人たちに見て欲しいです。

<監督自己アピール> 26歳。大学時代はグラフィックデザインを学び、同時に映画を学び始め制作を続けています。社会的なテーマに興味があり、多くの人が生きやすい社会を作っていけるような作品を制作したいと思っており、今回の「パールブルーがかさなる」でも多様な人が生きている社会を描きたいと思い制作しました。

2019

審査員賞 古厩智之賞



「されど青春の端くれ」(68分) 監督/森田和樹

[あらすじ] 北朝鮮からミサイルが発射された。だけど、僕たち三人は変わらずに毎日一緒に遊んでふざけている。

<作品のメッセージ> かつこいい、甘酸っぱい、キラキラしてる商業の青春映画たちが溢れているけど...いや、僕自身の青春はダサかったし、男臭かった。惨めだった。情けなかった。何かしたいのに何もできなかった。でも、友達とふざけたあの時代は楽しかったな...そんな思いの詰まってる映画です。純粋な初期衝動を見てください。

<監督自己アピール> 30歳。良い機材やお金がなくて、映画が撮りたいその一つの気持ちだけで正直に背伸びせずに制作しました。

2019

特別賞 実行委員会特別賞



「おろかももの」(96分) 監督/芳賀俊・鈴木祥

[あらすじ] 高校生の洋子は、結婚を目前に控えた兄の健治が美沙という女性と浮気をしている現場を目撃する。衝動と好奇心に突き動かされて美沙と対峙した洋子は、美沙の独特の柔らかさと強かさ、脆さに惹かれていく。兄への苛立ち、兄の婚約者・果歩に対する言い様の無い不満、そして美沙への感情が入り混じり、洋子は美沙に自分でも予期せぬ事を口走ってしまう。「...結婚式、止めてみます?」2人の女性達の奇妙な共犯関係が始まる。

<作品のメッセージ> 人は時として自分の愛する者に対して、心底愚かな行動をとる。そんな人間臭さのある、愛おしくも愚かで多面的且つ矛盾した登場人物達の繊細で大胆な心の機微の物語を、当て書きする事で各々の最高の魅力を引き出されたずっと私が恋焦がれていた最高のキャスト達と共に、フェミニズムの想いもこめて、最高の形で描きたい。そんな強い想いと共に、力強いスタッフの仲間達と一丸となってこの映画を作りました。

<監督自己アピール> ・芳賀俊...映画・CM等の撮影現場で撮影助手として活動。主な参加映画作品は「舞妓はレディ」「モリノいる場所」。また、田辺・弁慶映画祭で4冠を受賞する等高評価を受けた塚田万理奈監督「空(カラ)」の味で撮影を務める。今作が初監督となる。

・鈴木祥...日大芸術学部 映画学科 監督コース卒業。卒業制作の監督作品「ボーダー」が、うえだ城下町映画祭 審査員賞、映文連アワード2011 優秀作品賞を受賞。

第17回 自主制作映画コンテスト審査員プロフィール



大林 千菜莢

(おおばやし ちぐみ)

映画家／料理家。10歳頃から「キネマ旬報」に映画評論を投稿し、12歳で大林宣彦劇場デビュー作『HOUSE』(1977)の原案を担当。16歳から昭和天皇の料理番・渡辺誠氏に師事。国際儀礼(テーブルマナー)講師を務めるほか、部員8千人の【ホットサンド倶楽部】を主催。「マツコの知らない世界」にホットサンドブームの火付け役として出演。監督作『100年ごはん』(2013)は「映画を観て+同じ釜の飯を食べ+語り合う」というオリジナルな上映方式にて、日本のみならず世界各国240カ所で現在も巡回中。著書に『100年ごはん』上映活動を綴った『未来へつなぐ食のバトン〜』(ちくまプリマー新書)、レシピ本第2弾『ホットサンド倶楽部 もっと!いつでも、どこでも、おいしいレシピ!!』ほか。



柘植靖司

(つげ やすし)

プロデューサー。1954年岐阜県生まれ。日本大学芸術学部映画学科卒。学生時代よりフリーランスの制作マンとして映画、TVドラマ、CMの製作現場に従事後、ヘラルド・エース、バンダイ・ビジュアル、アスミック・エースエンタテインメントを経て、2008年個人事務所「C&P」を設立し、映像プロデュースを続けている。1998年「HANA-BI」、2002年「阿弥陀堂だより」、2008年「西の魔女が死んだ」など多数の作品のプロデューサーを務める。



古厩 智之

(ふるまや ともゆき)

映画監督。1968年長野県生まれ。日大芸術学部時代に撮った「灼熱のドッチボール」が、1992年ぴあフィルムフェスティバルでグランプリ受賞。1994年「この窓は君のもの」でバンクーバー映画祭「ドラゴン&タイガー・ヤングシネマ賞」を受賞。「まぶだち」は、2001年ロッテルダム国際映画祭で「タイガーアワード」と「国際批評家連盟賞」をW受賞。2003年「ロボコン」。「さよならみどりちゃん」は2005年仏ナント3大陸国際映画祭準グランプリを受賞。2008年「奈緒子」「ホームレス中学生」。2010年「武士道シックスティーン」。2013年「『また、必ず会おう』と誰もが言った」。2014年「無花果の森」、2018年「サくらんぼの恋」。テレビドラマ、2017年「銀と金」、2017年「サチのお寺ごはん」。

入場無料

第17回 自主制作映画コンテスト 受賞作品・ノミネート作品 上映スケジュール

11月16日(土) 犀の角・11月17日(日) 犀の角 ※各作品上映後に監督や出演者による舞台挨拶が5分間ございます。

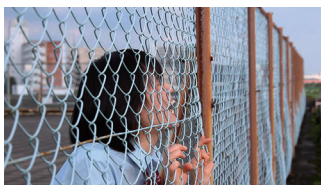
11月16日(土) 会場：犀の角 1 階				11月17日(日) 会場：犀の角 1 階			
時 間	作 品 名	監督お名前	時間(分)	時 間	作 品 名	監督お名前	時間(分)
8:30	開 場			8:30	開 場		
9:00~ 9:25	「夏の夜の花」	高橋 伸彰	24分30秒	9:00~ 9:30	「テラリウムロッカー」	葛 里 華	30分
9:33~11:02	「pour」	鈴木 貴士	89分	9:38~10:18	「わたしのヒーロー」	佐藤 陽子	39分10秒
11:10~12:18	「されど青春の端くれ」	森田 和樹	68分	10:26~10:56	「あらくれ」	鈴木 冴	30分
12:26~12:56	「パールブルーがかさなる」	田中 麻子	30分	11:04~11:36	「ひとりずもう」	星崎 久美子	32分
13:04~14:40	「おろかもの」	芳賀俊・鈴木祥	96分	11:44~12:22	「ホームシング」	中村 圭吾	38分
14:48~15:03	「I S I」	藤本 明	15分	12:30~13:30	「ミは未来のミ」	磯部 鉄平	60分
15:11~15:36	「次は何に生まれましょうか」	野本 梢	25分	13:38~15:37	「とりもどす」	藤野 知明	119分
15:44~16:04	「こんがり」	月足 直人	19分30秒	15:45~16:04	「宮田バスターズ(株)」	坂田 敦哉	19分
16:12~16:42	「VR職場」	高島 優毅	30分	16:12~17:34	「ドブ川番外地」	渡邊 安悟	82分
16日(土) 会場：上田文化会館ホール				11月23日(土) 24日(日) 会場：上田市マルチメディア情報センターホール			
17:20~17:55	自主制作映画コンテスト表彰式			13:00~13:31	「春」	大 賞 大森 歩	31分
18:00~18:31	「春」大 賞	大森 歩	31分	13:41~13:56	「ISI」	大林千菜莢賞 藤本 明	15分
16日(土) 会場：犀の角 1 階/料金：2,500円				14:06~14:36	「パールブルーがかさなる」	柘植靖司賞 田中 麻子	30分
19:30~約2時間	交流会			14:46~15:54	「されど青春の端くれ」	古厩智之賞 森田 和樹	68分
				16:04~17:40	「おろかもの」	実行委員会特別賞 芳賀 俊祥 鈴木 祥	96分

くうえだ城下町映画祭自主制作映画コンテストについて

上田の映画文化の振興と若手映画制作者の支援を目的に、2003年から行っています。15分から2時間前後の作品まで、ドラマ・ドキュメンタリーを中心に全国から作品が集まり、17回目となる今回は112作品の応募がありました。受賞作品は多くの観客の方にご覧いただけるよう、映画祭会場での上映やインターネット配信、マルチメディア情報センターでの視聴ができます。受賞をきっかけに映画やテレビ等の世界でさらに活躍する方も出ています。

コンテストHP <https://www.unic.jp/eigact/index.html>

第17回 自主制作映画コンテストノミネート作品（五十音順）



【あらくれ】（30分）

監督＝鈴木冨

あらすじ あらくれもののシマは軽音楽部部長。生物教師の真山に密かに想いを寄せているが、文化祭のバンドをめぐって親友と決裂し部活をやめてしまう。真山に励まされてバンドへの気持ちを持ち直し始め

たとき、真山の結婚を知ったシマは…。

作品のメッセージ 本当に良い人ってなんだろう。という疑問からこの作品は始まりました。何かに一生懸命だったり、人を傷つけないように自分を悪者に行っている人こそ「真に良い人」なんだと思います。その小さな真実を映画にしたいと考えました。

監督自己アピール 興味本位で入った大学の映画サークルがきっかけで今まで映画を撮っています。日常生活において嫌われるであろう人物に焦点を当てて描くことで私の映画を観ている時間が誰かの心の救済になることを目標としています。



【こんがり】（19分30秒）

監督＝月足直人

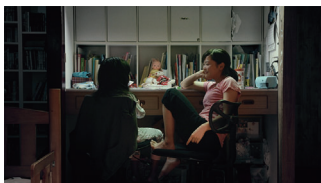
あらすじ これはとある関西人家族の物語。亡き父のため「あるもの」をどうしても棺桶の中に入れてい、恵子は東京から嫁い

だドジで忘れ物が多い嫁、千秋を買い物に行かせるが告別式が終わってもなかなか

帰ってこない。タイムリミットは出棺されるまで。はたしてこの家族は亡き父のために「あるもの」を入れることはできるのか？

作品のメッセージ よく棺桶には故人の好きだったものを入れると聞きますが、それは故人のためにできる家族の最後の誠意や愛だと思いました。亡くなった最愛の人のために家族が一生懸命動く様が視聴者にとても共感を得られるのではないかと思います。関西人である自分が何を投入してほしいかと真剣に考えた時、物語のキーになるアイテムが、

監督自己アピール 1981年生まれ、神戸出身。関西でテレビ番組のADを経て、東京のCM制作プロダクションに在籍。以後独立し、映画・CM・バラエティなど様々なジャンルの企画演出を行う。コメディ路線の映画や物語を得意としている。2014年「ハンガ―ゼット」で商業映画デビュー。2018年短編自主映画「MARCY」製作。



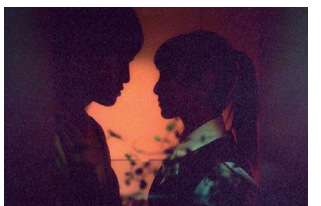
【次は何に生まれましょうか】

（25分）監督＝野本梢

あらすじ シングルマザーの聡美は娘の望結（みゆ）が他の子たちと少し違うことに苦悩しつつも誰にも相談できずにいた。親に叱責され、担任の先生に泣きつかれ、聡美は苛立ちがつのり、ついに望結に当た

ってしまう。
作品のメッセージ 自分や自分に近い人が周り少し違ふと感じてもそれは努力不足として自分を責めてしまったり、周囲もそう捉えたりすることがあるかと思いますが。ちょっとしたことで誰かに打ち明けることができるようになったらいいなと思い、映画を撮りました。

監督自己アピール 32歳。青春時代を日陰で過ごしてきたため、そのとき培った気持ちで普段の当たらない人や感情を描くことを心がけています。



【テラリウムロッカー】

（30分）監督＝葛里華

あらすじ 三流商社の事務職として働く岡本もも（26）には、彼女だけの楽しみがあった。それは、会社の個人ロッカーで秘密に育てているテラリウム。それだけが彼女の心の癒し。ある日、不思議な雰囲気のある庭師に出会い…。

作品のメッセージ 会社で働き続けて3年経った春。大学時代の友達や新しく出会っ

た人々と映画を作ることができました。メインスタッフはみんな20代の社会人女子。映画を観終わった後のあなたの心に、一輪の花が咲きますように。そんな願いを込めて、この映画を作りました。

監督自己アピール 高校の頃より演劇をはじめ、慶應義塾大学に入学。「創像工房 in front of.」に所属し、その後映画製作を始める。主な受賞歴に、第28回東京学生映画祭ノミネートがある。現在は出版社にて漫画編集者として勤務中。



【ドブ川番外地】（82分）

監督＝渡邊安悟

あらすじ 自殺した友の死を受け入れられぬまま、無為な日々を送っている引き籠り青年増村辰巳は、両親の自分のことで諍う声にウンザリし、ふらりと家出する。浮浪

者親父土土郎と出会い、彼の家で暮らし始めることとなる。
作品のメッセージ 僕自身の実体験を誇張し、ファンタジーを織り交ぜながらエンターテインメントとして仕上げました。頭の中にある言語化不能なテーマでがむしゃらに映画と向き合いました。日々孤独を感じている人や、自由を夢見る人たちに是非観ていただきたいです。当時の僕の全てが詰まっています。

監督自己アピール 25歳。真面目です。悩みません。映画が大好きです。



【とりもどす】（82分）

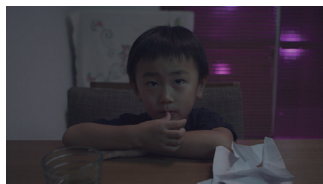
監督＝藤野知明

あらすじ 1930年以降、形質人類学の研究目的で北海道大学を筆頭に国内外の大学、研究機関が自ら蒐集したり、寄託を受けたアイヌ遺骨は1,600体以上ある。以来、アイヌは慰霊という過去と現在を結ぶ行為

が中断された。2012年3名のアイヌが北海道大学に遺骨の返還を求めて提訴した。その後、各地のアイヌも遺骨を求めて北大を提訴。遺骨の返還・慰霊・再埋葬までの記録。

作品のメッセージ 80年以上も未解決のまま放置され続けてきた、研究者によるアイヌに対する人権侵害を知り、それを伝えるために制作しました。

監督自己アピール 53歳。新藤兼人監督の制作会社にアシスタントディレクターとして勤務。新藤監督のシナリオ勉強会に参加。インドネシアで撮影した映画監督S・A・カリム氏のインタビュー映像を「NHK BSDキュメンタリー 映像で綴る現代史 封印された映画」（2007年）のために提供。



【夏の夜の花】（24分30秒）

監督＝高橋伸彰

あらすじ 大阪で生活する中華系の母と子。4歳になるヤンヤンは、父と数ヶ月前から会っていない。ある日、彼はかつて父が描いた花火の絵を見つかる。それを見た母は、ヤンヤンに花火を見に行く約束を

したのだが…。
作品のメッセージ 本作で描くのは大阪で生活をする中華系の若い世代である。社会と子供のあり方は各国で異なれども、この作品が文化や国籍、人種の違いを超えた共有できるテーマとして捉える事ができる。

監督自己アピール 36歳。大阪芸術大学映像学科卒業。2011年に北京に赴き、翌年に中国政府奨学金を受け中央戯劇学院に在籍、2018年に中央戯劇学院映画学科の博士課程を修了。中国で様々な映画製作に従事し、近年は俳優としても活動している。



【pour】（89分）

監督＝鈴木貴士

あらすじ 6歳の時、松太とはある母子家庭に父 明の手によって預けられた。そこに住む歳の近い優衣とその母の涼子との暮らしが始まる。高校生になった優衣と松太は互いに惹かれ合う、しかし松太の実の母

からの電話で…。
作品のメッセージ 誰もが自分の存在を発信できる今の世界であっても、実際に顔を合わせる他者の優しさに気づけず、本当の想いを目の前で伝えることはなかなか簡単にはできないような気がします。この映画が大切な人に想いを伝えるきっかけになれば嬉しいです。

監督自己アピール 1991年生まれ。福島県出身。國學院大学在学中、映画美術学校17期フィクションコースへ入学。卒業後同学校のフィルムワークショップで16mmフィルムに触れる。現在、フリーで映像の制作、照明、装飾の現場で働く。



【ひとりずもう】（32分）

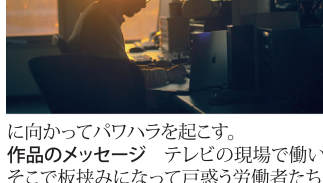
監督＝星崎久美子

あらすじ 図書館職員の西岡は結婚相手を探しているが、47歳にも関わらず20代ばかり狙っているのが上手い。遊園地のことを調べている大学生・ユキと出会い、自分が頼りにされていると勘違いして…。

作品のメッセージ フィクションでは40代男性と20代女性のカップルが当たり前のよう

に登場しますが、はっきり言ってそれはファンタジーです。なぜ40歳のオジサンが20歳そこそこの女性の恋愛対象であるとナチュラルに思えるのか、不思議に思っているこの映画を作りました。

監督自己アピール 世の中には「女性にしか見えない景色、女性しか感じない違和感」がまだまだあると思っています。そういうことをすくような映画を作りたいとも考えています。



【VR職場】（30分）

監督＝高島優毅

あらすじ 増え続けるニートたちの就労支援を行うべく開発されたゲーム「VR職場」。

ゲームの中に再現されたのは、「労働者にとつての楽園」。画期的なゲームだったが、ある日、AIキャラ「岩城課長」がプレイヤー

に向かってパワハラを起こす。
作品のメッセージ テレビの現場で働いていた頃の体験を元に制作。心がけたのは、そこで板挟みになって戸惑う労働者たちを描くことです。「なぜ今、日本中で労働者に対する嫌悪感が広がっているのか？」という問いに、自分なりの考えをぶつけました。

監督自己アピール 30歳。早稲田大学文学部演劇映像コース卒業。テレビ局で、バラエティ番組制作スタッフとして4年間勤務するも、ドラマ・映画制作への思いを捨てきれずに退社。2018年からフリーランス。「YouTubeの専門家」としてテレビ番組での解説なども行う。制作・監修を担当した動画の合計再生回数3億回を超える。



【ホーミング】

(38分)

監督＝中村圭吾

あらすじ 老朽化が進む団地に住む主人公は、母と父と3人暮らしをしている。団地から出られずにいる彼は恋人からプロポーズされ、家を出る選択を迫られる。

そんな中父が失踪してしまい、母は傷心してしまう。団地から出る、出ないの彼の葛藤を描いた物語。

作品のメッセージ 30歳を超えて実家暮らしをしていると、世間の目が気になってくる。世間との体裁を保とうとしつつも、現状のままで本人にとってはそれが幸せだったりする。5年アルバイトをしていた東京の多摩センター。多摩ニュータウン計画で建てられ、老朽化した団地とそこに住む人々をみて、この作品の着想を得ました。

監督自己アピール 32歳。北海道出身。大学を卒業後、日本映画学校(現・日本映画大学)俳優科に入学。卒業後演劇活動を続け、2015年秋ENBUゼミナールにて映画製作を篠原監督より師事する。ENBUゼミナール在学中に「青春コンプレックス」「ガールズトーク」を制作。今作自主制作映画3作目となる。



【ミは未来のミ】

(60分)

監督＝磯部鉄平

あらすじ 高三の上村拓也は秋になっても進路を決めかね、焦りを感じながらもダラダラと過ごしていた。ある日、仲良しグループの親友・高木が交通事故に遭う。上村は

皆で交わした約束を果たすために仲間を集める。

作品のメッセージ 自分の体験を元におもしろくて切ない青春映画を作りました。

監督自己アピール ビジュアルアーツ専門学校大阪卒。小谷忠典監督「フリーダ・カーロの遺品」に海外撮影スタッフとして参加。帰国後はフリーランスで企業VP、MVディレクター、インディーズ映画のスタッフとして活動する。2016年から自主映画製作を開始。国内の映画祭に多数入選・受賞する。



【宮田バスターズ(株)】

(38分)

監督＝坂田敦哉

あらすじ 地球に飛来する宇宙生物から人々を救い、世間から喝采を浴びる会社だったが、駆除テクノロジー

の進歩と共に会社のニーズ、社員の士気はすっかり消失していた。そんな中、会社を脅かす大事件が勃発する！

作品のメッセージ 小道具、大道具は自主映画の範疇を超えたものがあると思っています。実寸サイズの車や電柱をホームセンターに売っている材料だけで作り、オフィスに至っては建物そのものが造形物。この映画にはそうしないと絶対に撮れなかった画がたくさんあります。あえて面倒な方を選び抜いた僕達の映画製作を感じて頂ければ。

監督自己アピール 20歳。監督の他、特殊造形、撮影、照明、美術などあらゆる部署に深く関わりながら映像制作をしています。



【わたしのヒーロー】

(39分9秒)

監督＝佐藤陽子

あらすじ 都内のITコンサルに勤める松本達は、現在育休中。平日昼に歩いていれば職質され、友人からは子育ての大変さは

理解されない。それは職場復帰してから、更に重くなっているのだから…。

作品のメッセージ 出産後も仕事を続ける女性が増え、家事・育児に積極的に関わる「イクメン」が日本で浸透して久しい。しかし、「イクメン」を取り巻く環境はさほど変化をしておらず、「イクメン」は働くママとはまた別の「生きづらさ」を感じているのではないかと。

監督自己アピール 37歳。2017年35歳の時に、突然「映画撮りたい」ということが降ってきて、未知の世界の扉を開けました。映画に出会う年齢は若くはなかったけれども、これまでの人生経験や自分の想いを映像にぶつけて(特に、働くママを応援する活動は7年続けてきたので)、社会に広く自分の想いを届けたいと思って映像と向き合っています。



11.16(土) 会場：海野町「犀の角」

六文戦士ウェイダー応援上映会 & トークショー 17:10～18:10 入場無料

■市民有志によるご当地映像の制作

映像プロダクションから独立した時に何か地元根を下ろしたコンテンツを作りたいと考えて、2012年にこのご当地ヒーローを生み出しました。

以降、多くの市民の方に賛同・協力していただきイベントでショーを行いながら、2017年に念願の映像化をスタートさせる事が出来ました。紆余曲折あり完成まで3年近くかかってしまいましたが、ようやく最終話の第6話を製作できた事を深く感謝しています。上田市民による手作りのヒーロー、全編上田ロケの作品を多くの方に観ていただけたら幸いです。

今回は最終第6話(25分版)を応援上映という形で上映させていただきます。子どもも大人も、賑やかにウェイダーたちを応援してください！

ウェイダープロジェクト代表・監督 羽地勝義

■あらすじ

信州上田のご当地ヒーロー六文戦士ウェイダーは、400年前の真田から受け継いだ「機動甲冑」を着て戦う現代の戦士。心の力「ズク」をエネルギーにして悪の妖怪一族ゴツタクから市民を守る！戦いは終盤を迎え、ついにゴツタクの大首領「メタ＝メタ・ゴツタク」が姿を現した！人間のマイナスの感情が集まって生まれた恐ろしい敵を前に、ウェイダーは勝てるのか!?



協賛企業



丸子中央病院
MARUKO CENTRAL HOSPITAL

〒386-0405

長野県上田市中央丸1771-1

TEL:0268-42-1111 (代表)

HP:https://maruko-hp.jp



(病院HP QRコード)

安心にまっすぐ。



信州ハム

長野県上田市下塩尻950 TEL(0268)26-8686

https://www.shinshuham.co.jp/



〒386-0012

長野県上田市中央4-11-11

TEL:0268-22-0581

HP:https://tamaifruit.com/



個人協賛者 親 方 様

アート引越センター長野

〒386-0005 上田市古里1620-1
TEL 0120-250-123



株式会社イデタ製作所

〒386-0004 上田市殿城矢沢1605
TEL (0268)22-2472



聞こえますか・・・磁力が奏でる未来の世界
〒386-1193 上田市上田原1111
TEL (0268)24-1111
URL <http://www.kanetec.co.jp>

こいにし 千曲川の味とロマン
鯉 西 つけば小屋

TEL.0268-23-2438

ニシザワ
お召し上がりに来られる際はご予約をおすすめします。
上田市常田1-5 上田駅温泉口より徒歩5分
営業時間／11:00～21:00

SBC信越放送

上田放送局

〒386-0025 上田市天神1-8-37
TEL (0268)24-2141

(株) 武重商会

〒386-0018 上田市常田2-20-26
TEL (0268)22-6111

映画館で見る
映画のように。
本店は小さな
別世界である。

みすゞ飴本舗上田本店
〒386-0012 上田市中央1-1-21 TEL.(0268)75-7620



信州上田の地酒

福無量
ふくむりよう

元禄年間(1688-1704)創業
沓掛酒造株式会社

〒386-0043 上田市下塩尻35番地
TEL (0268)-22-1903
HP <http://www.fukumuryo.co.jp/>

福無量 真田幸村甲冑ラベル

